

「健康で心豊かに長生きをしましょう。」(38)

平成 27 年 11 月 27 日

村山 章

「情」とは、物に感じて動く心の働きを指しますが、深くて重い言葉ですね。人情、同情、友情、純情、愛情、情熱、情念、情動、薄情、非情等々、人間の色々な感情に含まれている言葉です。

昔は、結婚式で初めて会って、一生を共にする夫婦がほとんどだったようです。現在でもそんな国がまだあるようです。今の日本ではそんな結婚は考えられませんが、離婚率が昔より高いのも事実で「結婚した 3 組に 1 組が離婚」といわれています。平成 24 年度「司法統計」によれば、離婚原因の第一位は男女共に「性格が合わない」が挙げられています。しかし、そうやってしまえばおしまい、相手の言動に頭にきたり、価値観の違いから喧嘩を繰り返したりしながらも、長い年月によって「情」が二人を結びつけていくのではないのでしょうか。物心がついた頃から一緒に遊んでいた同級生と一緒にいると、さほど話をしなくても心は和みます。会社でも、長い付き合いの人とは何か心を許し合える関係を感じます。それは、長い年月によって損得感情を超えた情感が生まれるからではないのでしょうか。

物質的豊かさに重点を置き、相手に対する「情」をないがしろにし、人に対する思いやりや誠意を軽視するような生き方は、自身の人生をつまらないものにしてしまいます。確かに感情は変化しますし、感情の機微を捉えるのは大変難しい世界です。家族にないがしろにされたら「情」がなくなるときもあるかもしれませんが、でも人生はあくまで自身の生き様ですから、何があっても自身の生き様を通す強い意志をもって生きていきたいものです。

日本は島国で資源もさほどなく、みんなが助け合って生きなければいけません。人様を大切に思い、おもてなしの心や人と人との絆を大切にする文化が元々日本にはあり、その文化を大切にしてきたからこそここまで発展できたのではないのでしょうか。

「情」を大切に生きることが心の豊かさにつながるのだと思います。